

講義名	リーダーシップ論		
担当教員	内田 遼介		
開講期・曜日・時限	後期 月曜日 3時限	授業形態	講義
履修開始年次	1年生	単位数	2
備考			

主題と概要 優れた業績を挙げた組織は多くの場合、優れたリーダーによって統率されている。この講義では優れたリーダーとはいかなる資質を持つ人物なのか、またどのように組織を統率しているのか、リーダーシップに関する心理学研究が明らかにしてきた研究成果を中心に解説する。また、組織が持つ性質について、社会心理学の研究成果を適宜紹介しながら解説する。いずれも、優れたリーダーを目指すうえで大切な知識であり、社会に出てからも大いに役立つものである。

到達目標 リーダーシップに関する理論を理解し、それを他者に説明することができる。 組織のマネジメントに関する理論を理解し、それを他者に説明することができる。 実際に活躍しているリーダーについて、何が優れているのかリーダーシップに関する理論や組織のマネジメントに関する理論から説明することができる。 多様な人材によって構成される組織を効果的に導く方法を理解することができる。
提出課題 ・講義終了後の感想・質問の提出 ・プレゼンテーションに関連する資料の提出

提出課題 ・講義終了後の感想・質問の提出 ・プレゼンテーションに関連する資料の提出
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック ・毎週、講義内容に関する感想や質問を提出してもらい、提出された感想や質問のうち、特に全体で共有した方が望ましい内容については、復習を兼ねて翌週の冒頭5分程度を使って紹介・解説をする。 ・プレゼンテーションについては、発表終了後に担当教員から指摘らしかった点や改善点などについて一言フィードバックをする。さらに、学生間でプレゼンテーションの出来について相互評価を実施する。学生間の相互評価は集約したうえで、担当教員から各学生にフィードバックする。

評価の基準 ・第14回目・第16回目に提示する課題（30％） ・第11回目の理解度確認テスト（20％） ・第12回目のレポート（20％） ・第14回目・第15回目のプレゼンテーション（30％）

履修にあたっての注意・助言他 ・対面・オンデマンド共通 ・第14回目と第15回目のプレゼンテーションについては、原則1名ずつの発表を予定しているが、受講生の人数によっては、2名1組などグループでの発表に切り替える可能性がある。 ・基礎能力（パソコンの基礎）や情報処理入門などの講義を通じて、ある程度パソコンの操作（ファイルの保存方法など）やPowerPointの操作に慣れていることが望ましい。 ・オンデマンド ・オンデマンド授業で受講する学生については、第14回目までに各自でプレゼンテーションを録画してOneDrive上にアップロードすることを求める（予定）。そのため、オンデマンド授業で受講する学生については、自宅内にパソコンを使用できる環境があり、かつパソコン上でOneDriveソフト（特にPowerPointとWord）やWeb会議アプリ（SkypeやZoomなど）を使いこなせるスキルを有していることが望ましい。 ・授業の動向については原則、Microsoft Stream上に当日アップロードする。一定期間経過後は視聴不可になるので、必ず指定期間中に視聴したうえで課題と感想・質問を提出すること。

教科書 ・使用しない。					
-----------------------	--	--	--	--	--

プリント資料及び参考文献 ・<プリント資料> ・対面授業の学生については担当教員が資料を印刷して当日配布する。 ・オンデマンド授業の学生についてはMicrosoft OneDriveに講義科目までに資料をアップロードするので各自印刷して保管すること。 ・<参考文献> ・坂田桐子・瀬上克義（2008）社会心理学におけるリーダーシップ研究のバースベクティブ。ナカニシヤ出版 ・坂田桐子（2017）社会心理学におけるリーダーシップ研究のバースベクティブ。ナカニシヤ出版

授業計画 1 授業ガイダンス、イントロダクション：リーダーシップとは？ 2 リーダーシップの源泉：社会的勢力について 3 個人特性に着目したリーダーシップの理論（1）：個人特性研究の歴史 4 個人特性に着目したリーダーシップの理論（2）：ビッグファイブとリーダーシップ 5 行動に着目したリーダーシップの理論（1）：カハバク研究、アイダワ研究、ミンガン研究 6 行動に着目したリーダーシップの理論（2）：マネジリアルグリッド理論、PM理論 7 状況に着目したリーダーシップの理論：状況対応理論、SL理論、パス・ゴール理論 8 リーダーシップ研究の現代的トピック（1）：後進的リーダーシップ 9 リーダーシップ研究の現代的トピック（2）：サーバントリーダーシップ 10 組織のマネジメントに関わる理論：社会的手抜き、ブレインストーミングの有効性 11 ここまでのまとめ：理解度確認テスト 12 優れたリーダーの特徴について考える 13 プレゼンテーションに向けた情報収集 14 プレゼンテーション 15 プレゼンテーション(2)、総括
--

授業形態（アクティブ・ラーニング） ア：PBL（課題解決型学習） ウ：ディスカッション、ディベート オ：プレゼンテーション キ：その他（A/L型であるけれども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） エ：グループワーク カ：実習、フィールドワーク
--	--

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間 ・<予習> ・毎回講義終了後に、次週の予告と講義内容に関するキーワードを提示するので、各自そのキーワードを参考に関連図書などを通じて予習しておくことが求められる（2時間程度）。 ・<復習> ・講義終了後に講義中に学習した内容について再度確認のうえ整理しておくことが求められる。さらに、新聞記事データベースなどを使って講義内容に関連する事例を探し出し、リーダーシップに関する理解を深めることが望ましい（2時間程度）。
--

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連 リーダーシップ論では、リーダーシップや組織のマネジメントに関する諸理論を単に理解するだけでなく、実際に多様な人材で構成される組織を効果的に導く方法を理解して実践できるようにすることを目指す。この目標は、人間健康学科共通の卒業認定・学位授与の方針として掲げられている「健康関連産業やスポーツ関連産業で就業する」という点に貢献しうるものであり、したがってリーダーシップ論は人間健康学科の卒業認定・学位授与の方針と密接に関連する科目である。 ・<学科共通> ・まずまず高齢化社会が進む現代社会において、子どもから高齢者までの広範囲にわたる健康分野に関する基礎知識を身につけ、健康関連産業やスポーツ関連産業で就業することができる。 ・到達目標とを達成することで上記Pに貢献できる。リーダーシップや組織のマネジメントに関する諸理論を理解するだけでなく、実際に多様な人材で構成される組織を効果的に導く方法を理解しておくことは、健康関連産業やスポーツ関連産業で就業することを志願した場合に有用であると考えられる。 ・<スポーツ健康コース> ・「する」「みる」「ささえる」の視点で、スポーツをキーワードとする関連事業分野、業種において企画運営に携わることができる。 ・リーダーシップ論では、「する」「みる」「ささえる」を対象とした授業構成となっている。集団や組織を想定した企画運営も学ぶことから、上記Pに貢献し得る科目である。 ・健康関連やスポーツ産業などの多様な社会的背景と今後の課題と対応策について、分析、評価、企画を行うことができる。 ・健康やスポーツ産業の課題に対応するためには、リーダーシップの能力は必要不可欠であり、そうした専門知識が学べる科目となっている。また、優れたリーダーや身近なリーダーを分析、評価、またどうしたら自分もそのようなリーダーになれるか企画を行うことから、上記Pに貢献し得る科目である。 ・<スポーツ健康コース> ・地域貢献活動などのフィールドワークを通して身につけた、幅広い年齢層に対応できるコミュニケーション能力やリーダーシップ力、マネジメント力を発揮することができる。 ・到達目標とを達成することにより、上記Pに貢献できる。フィールドワークこそ無いものの、リーダーシップに関する理論を体系的に学ぶことにより、幅広い年齢層に対応できるコミュニケーション能力やリーダーシップ力、マネジメント力を発揮できると考えられる。 ・健康保持・推進やスポーツパフォーマンス向上などのための理論や指導法を学び、それを通じて身につけたプレゼンテーション能力に基づく効果的な指導ができる。 ・到達目標とを達成度評価に関わって授業後半にプレゼンテーションを実施する予定である。このプレゼンテーションでは、他者に具体的な人物を示しながらリーダーシップに関わる諸理論について説明することを求める。この経験を通じて、上記Pに挙げられたプレゼンテーション能力の一端を身に付けることができると考える。
--

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述 ・Googleフォーム、またはMicrosoft Formsを使って課題の提示や理解度確認テストを行う。 ・クリック（respon）を使って講義中に紹介した内容について学生一人ひとりから質問や感想を求めることがある。
--

実務経験の有無及び活用 なし

備考 ・授業の内容や進め方は社会情勢や受講生の理解度に応じて変更する場合がある。 ・対面授業を選択している受講生が一時的に通学困難になった場合は、対面授業の中での対応となる。オンデマンド授業への移行措置はない。 ・講義期間中に受講に関わるトラブルが発生した場合は担当教員までメールにて連絡すること。その際、学籍番号・氏名・受講している講義名・トラブルの詳細を必ず本文中に記載して連絡すること。
--